

聴覚障害描いた映画 独の映画祭で観客賞

ドイツで5月下旬に開催された世界最大の日本映画祭「第17回ニッポン・コネクション」で、聴覚障害者と健聴者のコミュニケーションをテーマにした映画「スタートライン」(今村彩子監督)が、最高賞に次ぐ観客賞を受賞した。

同映画祭には日本の100以上の作品が出品された。観客賞は人気投票で選ばれる賞で、監督の今村さんは「映画を見た人に選ばれ、最高にうれしい」と話す。

生まれつき聴覚障害を持つ今村さんは、聴覚障害者の生き方をテーマに、26本の映画を作ってきた。「スタートライン」は、コミュニケーションに劣等感を持つ今村さん自身が、日本を縦断する自転車の旅で出会う人々との交流を描いた。

この映画を紹介した記事は昨年12月に掲載した。医療サイト「ヨミドクター」(<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20161209-OYTET50007/>)で読むことができる。